

東京電力(株)福島第二原子力発電所 3号機の
定期検査中に発見されたトラブルについて
(シュラウド下部リング外表面の溶接部近傍のひび割れについて)

平成13年7月6日
原子力安全・保安院

東京電力(株)福島第二原子力発電所 3号機(沸騰水型、定格出力110万キロワット)は、平成13年4月29日から定期検査中であるが、原子炉圧力容器内部構造物の点検を実施したところ、シュラウド(注)の下部リング外表面の溶接部近傍にひび割れが認められた。

このため、今後、詳細調査を実施することとした。

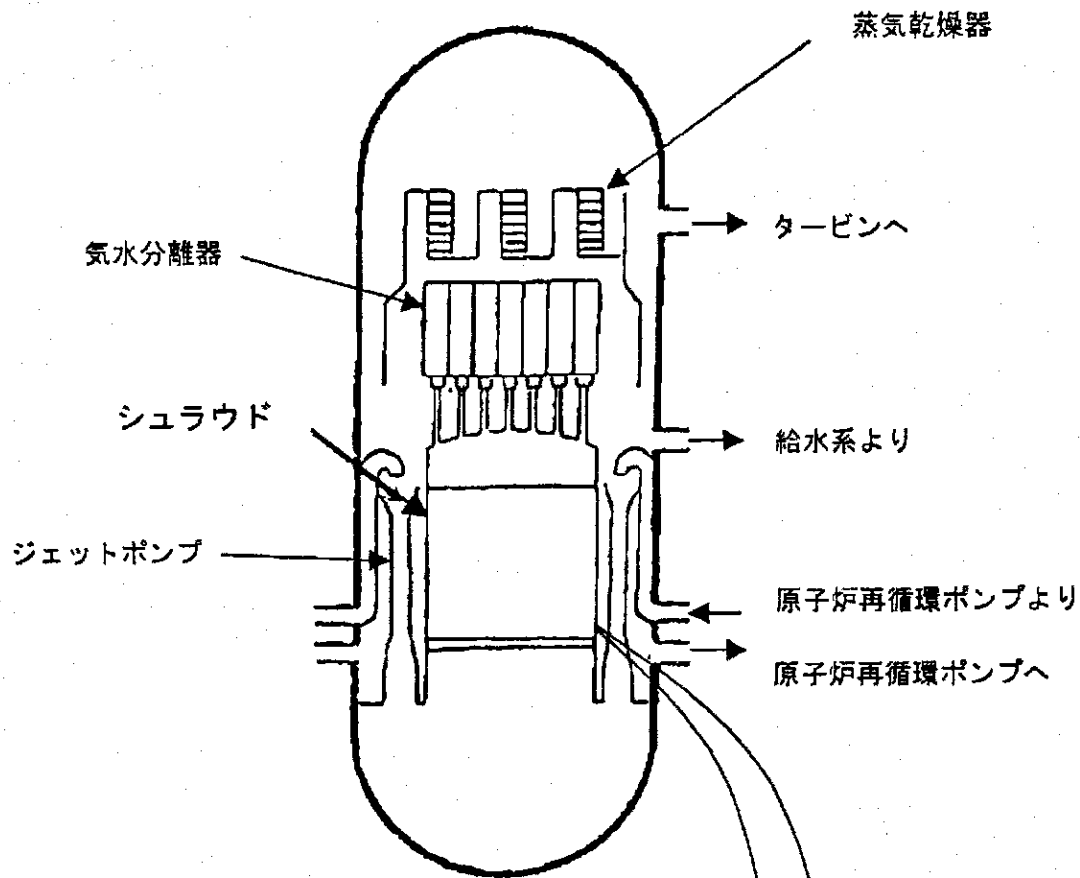
(注)シュラウド

炉心の外側にあり円筒形のステンレス製構造物であり、原子炉内の水の流れを分離する仕切り板の役割を持っている。

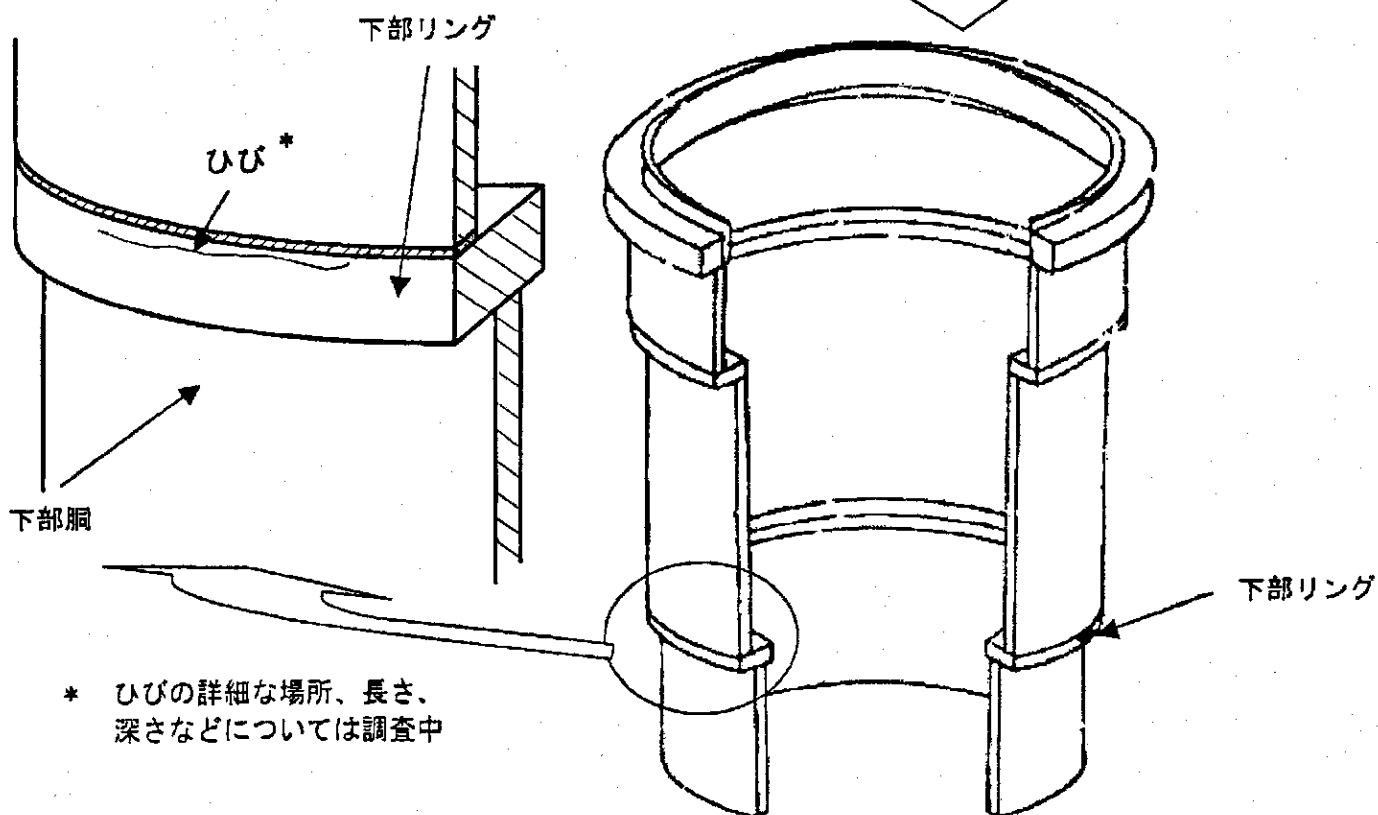
(INESによる暫定評価)

基準 1	基準 2	基準 3	評価レベル
-	-	0 -	0 -

問合せ先：原子力防災課原子力事故故障対策室
内線4911 直通3501-1637



原子炉圧力容器概念図



* ひびの詳細な場所、長さ、深さなどについては調査中

シュラウド構造図